

人民中国

PEOPLE'S CHINA

10

October 2013

定価400円

1956年12月18日 第3種郵便物認可
2013年10月5日発行
(毎月1回5日発行)通巻724号

中国を知るための
日本語総合月刊誌

農村の子どもに伝えるバレエの魅力



集中化・効率化が進む

新型農業

笹川平和財団の訪日研修プログラム 内陸部の大学生を受け入れた五年間

聞き手 光部愛 写真提供 笹川平和財団

中国内陸部の大学で日本語を学んでいる学生を一月間、日本に招いて理解を深めてもらう「中国地方大学日本語学習者訪日研修プログラム」が始まって五年。今年で一区切りを迎えた。

二〇〇九年から始まったこのプログラムは、笹川平和財団と早稲田大学留学センター、中国教育国際交流協会の共同主催。これまでに延べ九十九人の大学生が雲南省や青海省、新疆ウイグル自治区などから日本にやってきた。彼らは約一カ月間の日本滞在中、早稲田大学で日本語のブラッシュアップに励み、日本について理解を深め、その後、京都や奈良など関西方面を訪れた。

学生たちを世話してきた笹川平和財団の玉腰辰己さんは「日中関係がどのような状態でも続けられたことが誇り」という。玉腰さんにこの五年間を振り返ってもらった。



玉腰辰己さん

「この事業が始まったきっかけは、玉腰辰己さん（以下玉腰と略）笹川平和財団 笹川日中友好基金では一九九〇年から中国での日本語教育を推進するため、日本語教師派遣や学習者への奨学金制度を設けてきました。しかし中国の経済発展にともない、一〇〇九年にこれを廃止。同時にこの研修事業をスタートしました。中国の中でもとくに豊かな沿岸部ではなく、内陸部の大学で日本語を学ぶ学生を援助することにしたのです。こうした地方の大学には奨学金制度がなく、図書館にも日本語の本が少ない。また日

本人と接する機会がほとんどありません。このため生きた会話力をつけにくく、日本を遠く感じてしまいがちなのです。

「応募から試験、決定までと選考のポイントを教えてください。」

玉腰 中国教育国際交流協会が参加校を決定し、毎年四月から五月に各大学の日本語科で学ぶ二年生に日本語での作文を提出させます。面接試験では文法、発音、表現力などの日本語能力と、一般常識、協調性、積極性など十項目を調べます。異国の地で、初めて出会う学生たちと長期間行動を共にするわけですから、協調性は重要なのです。

しかし、何よりも大事な点は日ごろの成績と「日本に行きたい」という熱意です。たとえ日本語がたなくても、情熱が伝わってくる学生はポイントが高くなります。時に、泣きながら訴える学生もいました。

ただ、正直に言っても今年に限っては、日中関係の悪化による影響が、例年に

比べるとそこまで積極的とは言えなかったことが少し残念でした。

「研修前の準備や研修後のフォローもされるのですか。」

玉腰 近年は選抜メンバーが決まった時点で、事前に全員をQQ（中国で良く使われているSNS）のグループに入れ、スムーズに研修がスタートできるようにしています。また終了後は、就職活動などで都会に出る際、先輩を紹介し、面倒を見てもらっています。また今年度は、歴代の研修生が集う食事会を開きました。同じ研修に参加した仲間として助け合ってほしいと思っています。

「今年、特に印象に残ったのは。」

玉腰 今年度は、京都で立命館大学の学生とも交流をしましたが、学生同士、同じ年代のせいかわず、みな素晴らしい笑顔でした。あと、今年も帰りの空港で泣いてしまう子が何人もいました。私としては、五年のプログラムを無事に終えることができて、心底ほっとしました。五年間の研修は大変でしたが、

玉腰 つあります。つは、学生が豊かになりました。彼らが日本に持参するものとして、電子辞書、パソコン、デジタルカメラがあります。

〇〇九年には、まだ紙の辞書を使っている学生がいました。しかし今は皆電子辞書です。また日本に着いたら、

自分の携帯やパソコンで、簡単に家族へ無事を報告します。本当に豊かになりました。

もう一つは、この五年間、日中間にはいくども難しい問題が起こりましたが、この事業は続けることができず、この事業は続けることができず、この事業に対する中国側の理解が非常に深かった結果だと考えています。

今年でこのプロジェクトは、区切りですが、すでに関係者から高い評価を得ており、来年以降も、改良を加えて新たな計画を申請する予定です。



京都 建仁寺での座禅

20日間の学習期間を終えた後の楽しい関西旅行

